大和の國土

山崎直方

諸君、私は元來甚だ輕率な性質でございまして先達て本會の幹事の御方より何か諸君に御講演を申上るやうにといふ御紹介を受けました際に、丁度芳賀先生にも本日御見ゑになるといふことを承りました芳賀先生の御話はどういふ御話があるかといふことを御尋ね致しました所が大和心といふやうに承つたのであります。私の聽違ひでありましたらうが然らば芳賀先生が其日本の國民の麗はしい精神のことを御話になるならば、私は寧ろ物質的此吾々が生を享けて居りまする所の此の日本の國がどういふ所であるかといふことに就きまして、何か少しばかりのことを申上げたいといふことを御返事を致して置いたのであります。本日、先刻以來御演說を拜聽いたしまして實は甚だ自分の輕率なることを悔いたのでございまするが、大和心と承りましたのが實は大御心のことであつたので、併し御話を承つて居る中に民の心を以て己が心とするといふ其大御心であるといふことを承りまして、其實に有難い御心は自分の輕率を御容し下すつたといふ感じが致しましたのでありまして、即ち自分が此芳賀先生の御話を日本國民の其心と了解して居りましたことが結局大御心と同じく發露した所の其麗はしい其御心を体して日本國

民の心として居る、然らばそれに對して日本の國土のことを申上げても亦不都合でないと存じましたので續きまして此問題に就きまして二三申上げたいと思ふのであります。

誰でも自分の鄉里を愛しない者はないのであります。即ち愛鄉心、心となつてそれが現れますし、又獨り自分の心のみならず延ては自分の生を享けて居りまする大きな國、其國を愛する愛國心となつて現れることは是は如何なる民族、如何なる社會、如何なる時代に於ても同樣のことであるのであります極めて蒙昧な民族、阿弗利加の森の中に住まつて居る者でも、或は中央亞細亞の砂漠の中を彷徨つて居ります者でも、其胸裏に愛鄉心があつてこそ子々孫々其地を守つて住まつて居ります。彼等は自分の鄉里を以て無上の好天地と考へて之を自分の同胞、自分の子孫に傳へて樂しく送つて居るのであります。其鄉里を愛する上に於ては誰も甲乙はないのでありまするが、併ながら苟も世界の國民となつて既に國家的の生活をなして他の國と肩を竝べて世の中に立つて居ります以上は、出來得るだけ自分の國が如何なる國であるかといふことを了解するいふことは極めて大切なことであるのであります。因より其民族がどういふ民族であるか、他の民族と較べてどういふ特色を有つて居るか、如何なる長所があるか短所があるかといふことを心得ることは是は民族として極めて大切なことでありますが、同時に己れの住まつて居る土地即ち國土なるものゝ性質がどうであるか、どれだけの價値があるか、之を極めて公平に觀察いたし、まして他の國に優つて居る所があるか、足らぬ所があるか、若し足らぬ所があるならばどういふ所が足

らぬのであるか、其足らぬ所を補ふのには如何なる力を以て之を十分に補足して行くことが宜いかといふことを研究することは國民として極めて大切な心掛であらうと思ふのであります。自分の國が最も善い國であるといふことは洵に麗はしい考でありますけれども、併ながら其善いといふ所は何處であるか麗はしいといふのはどの位の程度であるか、之を廣く世界的に比較研究しまして、其正當なる價値を判斷して置くといふことは極めて大切なることであらうかと思ふのであります。吾々は日本の國土が世界の國々に比べまして洵に麗はしいといふことは自覺して居るのでありまするし、又吾々自らがそれを認めて居りまするばかりでなく、外國人が一たび日本の土地を踏みまするとと天下の極樂であるとかいふ讃辭を以て常に之を形容して居るのでありまするし、長く此土地に住みたい、天下の樂天地であるといふ言葉を以て讃美して居るのであります。併ながら此讃美して居ります國が世界的の立場から見まして果して彼等のいふ如く十二分に價値があるものであるか、外と比べてどれだけ價値があるかといふことを考へますと吾々は尙深く研究する必要があるのであります。

それならば凡そ國土といふものゝ價値を判斷するのにはどういふ点から之を觀察すべきか、之には種々の方面から見る必要があるのであります。或は此國土の自然地理の位置から見ることも一つの見方であります。或は又此國土の世界的人文の上から如何なる地步を示めて居るかといふことを見るのも是も亦一つの觀察の仕方であります。自然地理の上から見てどういふ觀察をするかといひまするとと、自然地理

と申しますれば人事に何等の交渉關係なく、即ち地球表面の何處に日本があるか、日本のみならず國々はどういふ所にあるかといふことを見たいのであります。即ち先づ熱帶にあるか、寒帶にあるか、温帶にあるかといふことも一つの觀察の仕方であります。阿弗利加の眞中であるとか、或は印度のやうな、それと同じやうな非常に暑い一年中冬を知らない、さういふ土地にあるか、或は又さうでなく始終雪が降つて居るとか若しくは雪が降らぬでも非常に寒い一年中毛衣を纏つて居らなければならぬといふやうな氣候の所であるか、斯樣なことも觀察するのであります。暑い所ならば太陽熱の供給が十分である、實に太陽は宇宙の萬物に向つて生命を與ふる所の最も大切なものでありまするから、太陽熱の不足であるとか十分であるとかいふことは動物植物凡ゆる生物の繁榮に向つてどれ程影響して居るか分らないのであります。暑い地方でありますれば動物でも植物でも生々として居る。殊に植物界の狀態に於きましても實に延び〳〵と生長いたします。同じ種類の植物であつても温帶地方のものに較べると大きく長けが高く非常に肥つて生長する。又其生殖に於きましても甚だ盛んでありまして花が咲き實りがしますのも洵に短時日の中に能く成就するのであります。米を作りましても一年に二遍も三遍も作る、蠶を飼ひましても所に依りますと四遍も五遍も上簇を見るといふ事があるのであります。斯の如く熱帶地方でありまするならば生物の發育には甚だ適して居る。是が段々温度が低くなり終に所謂寒帶地方に參りますといふと、最早太陽熱は十分に植物を養ふことが出來ない、森林の數は段々減つて來ますし、植物の種類も

減つて來まして遂に樹木は生長せず短い灌木が生えて居る。尙ほ進んでは灌木も生えない、だけになつてしまふ。尙ほ進んでは草も生えない漸く苔のやうなものか一年の暖かい間少しく地表を蔽うて居るに過ぎない。けれども冬になると苔も生えない。土地の表面は全部氷で固まつてしまふ。掘つて掘つて地の中に這入つて行きましても地の底は皆氷で出來て居るといふ所になつてしまふのであります。さういふ所に於ては既に植物も生えなければ植物を餌食として居る動物も其處で生を享けることが出來ないのであります。動物の數も種類も減つて來ます。動物の數じ種類も減つて來れば其動物を餌食として居る肉食獸の種類も數も少なくなるし人間も其處で木の實を取ることも穀物を作ることもない。又肉食をするにも喰ふ物が少なくなるといふことになると人間の棲息するに不便である、唯だ太陽熱の供給如何でもそれだけの相違があるのであります。獨り大陽熱ばかりでなく自然界の賜物としてそれ以上にもう一つ大切なものがある、それは雨の供給であります。今夕の如く雨が降りますと折角の祭日を無にしたと呟く人がありますが是は或る地方から申しますれば勿体ないことでありまして、雨の水程大切なものは太陽の熱を除いては外にないのであります。一寸見渡しまして日本などで山の地方で段々奥へ奥へ這入つて行きましても何處かに人が住んで居る、けれども愈々人里の無い木樵の小屋すらも見出すことが出來ぬ所は何處かといふと、もう水の盡きる所、谷に水の無い所で泉の湧出す所は何處までも辿つて行つて人は住つて居る、けれどもそれ以上の水の湧かぬ所には人は住んで居りませぬ。吾々は食物を取るとい

ふことゝ飲料水、此缺亡を感ずる程非常な苦痛はないのであります。それで世界でも同樣であります。水の湧いて居る所ならばどの地方でも人間は居る、太陽熱の供給は充分であつて非常な暖かい所でありましても水が無ければ其處には何物も生活することが出來ぬのであります。人間ばかりでなしに他の動植物も其處には生存することが出來ぬのであります。隨分世界を見渡して見ますと、さういふ土地が廣く横はつて居るのであります。此大きな亞細亞大陸でも、亞細亞の眞中即ち中部亞細亞の西の方の亞剌比亞の方に掛けまして斯の如き地方が隨分横はつて居る。一年中雨の降る量が極めて少い。隨て土地を濕す力がない、又隨つて地を流れて居る川が乏しい、偶々川があればそれは遠くの山の雪融の水で雨となつて地方を濕はして呉れた水が流れて居る川は少しもない。それ故に其處には草が生えず木が生ねませぬ草が生えず木が生えませぬので緑の濃い美しい皮がありませぬで詰り地の骨が出て居る。皮を被らさずに此地球の骨が其儘出て居りまして岩山である。其岩山が或は暖められ或は冷却せられる。太陽熱は照り付けられ又太陽が引込みまするとそれが冷えるといふ樣に膨脹をすれば收縮をするから、段々毀れる毀れたものは崖の上から崩落ちる、崩落ちると段々甚だ細かになる、それが風に吹かれて飛び易い、若しそれが植物が蔽うて居りますれば飛ぶことを防ぐことも轉がることを防ぐことも出來るのでありますけれども其自然の儘に唯だ轉がり吹飛ばされる、段々それが遠くに吹飛ばされると砂になる、其砂の一面に蔽ふ所が砂漠となるのであります。此荒地、此砂原、沙漠で蔽はれて居る所が唯今申しました亞細

亞だけでなか〳〵廣い阿弗利加に參りますと阿弗利加の北の方の大部分は斯の如き沙漠から成つて居る亞米利加に行つてもありますし又南半球の濠太利、南阿弗利加でも、赤道の兩側二十度位の所にはずつとそういふ地帶が横はつて居る。詰り世界中に於て役に立たぬ所、作物を造ることも出來なければ隨て人の自由に住むことが出來ぬ所が斯の如く隨分廣く横はつて居るのでありまして、面積に致しますと地球の陸地の面積の約三分の一程はそういふ役に立たぬ土地で蔽はれて居るのであります。是等の土地と此日本と較べて見ましてどれだけ日本が有難い所であるかといふことは既に想像に餘りあるのであります。斯の如く荒地程にはならなくとも即ち太陽熱の供給も相當にあり雨も相當に降ることは降るけれども其降り方が極めて少い、それ故樹木が成長するには少し雨量が足りない、けれども草が生える位に雨が降つて居るといふ所では沙漠でこそなくとも草原である、森林は無くとも草原である、斯ういふ所は廣いのであります。直ぐ此近所の蒙古に參りますと蒙古の沙漠に移る迄、滿州邊から段々西に行きまして、蒙古の高臺に登ると其邊り一面に廣漠ではありまするがそれは草原であります。そういふ所で人間が住むことが出來るかといふと、住むことは出來ますが、此邊のやうに其處に村を立てゝさうして耕作をする、田を耕し畑を耕すことが出來るかといふと、それは出來ない。即ち其處には一年の中或季節だけは太陽熱と雨量との關係から草位は生えて呉れますけれども扨其處に種子を蒔いて作るとか粟を作るといふ優長なことは出來ないのであります。太陽は照して呉れ雨も降ることは降りますが、それだけ生

存を得るだけのことは其處には出來ない。しますると唯今申しました農業は其處には出來ない。百姓が小屋を立て、一つの所に靜止して落着いた仕事をすることは出來得ないのであります。彼等は何をするといふと農業は出來ない併ながら草を喰ふ色々家畜が居りまするから羊を連れて來る牛を引張つて來る、羊の群牛の群を其處此處に追遣つて即ち遊牧生活をやつて居る。隨分澤山な何千頭、何百頭の群を連れてなか〳〵大きな群が居ります。人の財產を數へる時にあれは百萬長者であるといふ代りにあれは一萬の羊を有つて居るといふことで、それ程澤山の財產といふものを皆羊其他の家畜で有つて居る。併し其實は銀行の金庫の樣に一箇所に靜止して居るのではなくして始終其處此處に彷徨つて居る。隨つて其持主たる人間も一箇所に村を拵へて住まふといふことはしないのであります。始終羊の群と彷徨つて居る。彼等は永久的に村を拵へて居ないのであります。尙ほ所に依ると隨分澤山の人が集つて村を拵へて居りましても其村の價値としては何處がの野の隅の掘立小屋の百姓の小屋よりも劣つて居るのであります。如何に掘立小屋の小さな百姓の小屋と雖も旣に農業生活をして居るとなるとそれは永久の生命を有つて居るのであります。本年來年と繰返し〳〵耕すことが出來るのであります。終には段々其近所の土地も開いて來て掘立小屋が五六軒の農家となり、尙ほそれが大きな村となり、村が澤山出來て來れば尙ほ其中には都會も出來て來る。立派な大都會も出來ているといふことから社會生活をするのでありますが、遊牧生活をして居るものは百二百の天幕が固まつて居るもそれはほんの一時的のもので秋行つて見ればもう何處へ

行つたか影も形も無い生活をやつて居るのである。何十里何百里に亘つて居ります廣き草原に唯だ流離の生活をして居るに過ぎないのであります。是等の者に較べて見ますれば、唯だ田圃の隅にあります掘立小屋で洵にいぶせき生活をやつて居りましても如何に安樂如何に確固たる生活をやつて居るといふことが察せられるのであります。それで日本の國が是等の氣候の上から見てどうであるか、日本の中に唯今のやうな沙漠があるか。日本の中に唯今のやうな草原生活があるか、遊牧生活でなければ生存することが出來ないやうな地方があるか、否是等の生活をする地方は日本の中にはないのであります。即ち吾々の住まふ土地としましては申分無き實に健全なる社會を打立てゝ居る其自然界に住まつて居るといはなければならぬのであります。而かも太陽熱の供給は餘り非常に暑からず非常に寒からず極適當に普通に供給を受けて居るのであります。此太陽熱が強ければ強いだけ植物界の成長といふことには宜いかも知れませぬけれども、餘り熱度が高くなるといふことは一方に於て吾々の人間の身体の上に又種々の障害を來すので丁度動植物が早熟しまするやうに人間も早熟し易い、印度などに於きましては七つ八つの花嫁があるといふことは少しも珍しくない話であります。中には十五六になると二三人の親となるといふ者も印度にはあるのでありますから、人間も早熟するのであります。又吾々の一日中の生活に之を照して見ましても彼等が日本などに於て二六時中營々として少しも倦むことなく撓むことなく同じやうな程度に於て愉快に生活をして彼等がやつて居るかといふと、決してさうでない。餘りに暑い爲に一日の中に朝から

晩まで續けて仕事をするといふことは思ひも寄らぬことで、日中になりますと、晝寢をしてしまふ、休息してしまふ、十二時間時間はありますけれども其中十分能率を發揮する時間は一部分に過ぎない。又其働いて居る時間の中でも暑い時には一体に身體が怠くなるといふことは吾々の經驗して居りまする如くに、矢張り其働いて居る間と雖ども此溫帶地方に於いて居る働きさに較べて見ると能率は少いのであります人間の頭腦及び身體此二つを使つて行きまする上にどの位の溫度が一番程合ひであるかといふことを各地方にて統計を取つて見まするといふと、先づ普通吾々が世俗に用ひて居ります華氏寒暖計に就て申しまして、寒い所から四十度まで位の間が能率が段々高まりまして、それから四十度、五十度、六十度位の間は是が一番物を考へるにしても亦筋肉を勞働させるにしましても一番能率の上る方であります。一番仕事の出來る所であります。それから六十度邊から七十度、八十度となりますと急轉直下して能率が下つて來るのであります。二十度三十度から度の上る方では四十度、五十度、六十度までゞ、六十度、七十度、八十度となると能率が下つて居る。是は多くの統計を取りました結果、さういふ風に分つて居ります。溫帶地方、此邊でもさうでありまして、印度であるとか其他熱帶方地に於きましては頭腦を働かす上に於きましても亦身體を働かす上に於ても餘り効果は得られないのであります。非常な大發明をするか或は又立派な工事を行ふとかいふやうなことに於きまして、どうしてもそれは溫帶地方の者に一歩を讓らなければならぬといふ統計が數字を居示してるのであります。吾々は其酷熱なる地方に居るのでもなければ又

非常に寒い地方に居るのでもありませぬ。極中和を得た此温度の地方に居るのでありまするから、如何に幸福であるかといふことを之に依て察せられるのであります。殊に我國の如きは其自然的の位置から見ましても雨量の供給に就きましては殆ど世界無比の立派な極上乘吉といふ位地を占めて居るのであります。即ち世界中で亞細亞の東から南の方に掛けて一帶の地方即ち日本、支那、印度ずつと是だけの地方に亘りました所は洵に雨が降るに都合の宜い時に雨が降つて呉れる、即ち夏になりまして雨が多く降るのであります。春から段々夏に掛けまして。ずつと秋に至る間夏を中心とする間が一番雨が能く降る。東京などに於きまして一年中にどれ位雨が降るかといふと、千五百耗といふのが平均でありますが、即ち一年中東京に雨を降らした量は丁度地表から千五百耗厚さの雨が降つて居るのであります。それが四季を通じて分配されて居りますが、即ち春先から夏に掛けて多いのであります。一方に於て太陽熱が高くなつて來る熱の供給が十分になつて來ると同時に又雨も能く降つて來るのであります。言葉を換へて申しますと、植物が段々成長して來ようといふ時、穀物を植付けて段々花が咲いて行かうといふ時に、其時に雨も能く降つて來るのであります。即ち養分を十分に欲しい時に十分養分の供給があるのであります、熱の供給も雨の供給も伴つて居るのであります。さういふやうな氣候が日本、支那、印度の方に掛けまして亞細亞の東端から西に行亘つて居ります。それでありますから是等の地方は日本の瑞穗國を始めと致しまして總ての國が先天的に農業國として發達して居るのであります。澤山の人間が住まつても彼等に十分

食物を供給し得るだけのそれだけの自然的狀態になつて居るのであります。それで吾々は日本の中では此南から北まで殆ど米を作り得ない所はないのであります。北海道などは迚も駄目だと思つて居りました所も今日では北海道の北の端までも米を作つて居るのであります。十分穀物を作るだけの田地を有つて居ります。樺太のことを心配して居りましたが、日本領樺太に麥を植えて收穫を得ることが出來る。況して日本の南の端臺灣の如きになりますと、一年中に二回三回の米の收穫を得ることが出來る、首尾一貫して日本國は申分ない特質を具へて居ります。獨り穀物の爲に宜いばかりでなく其他の種々の農產物又林產物などに對しましても此日本の地理的位置即ち自然的位置が洵に溫度の上から申しましても立派な天地であるといふことを認められ得るのであります。さういふ譯でありまする、が此自然的地理的位置を見まする外に、尙ほ自然的性質としまして其國の地形がどういふ風な狀態であるか、といふことを見たいのであります。其他形も大陸であるか、島であるか、大陸の中の內地にあるか海岸の地方にあるか、といふことも見たいのでありまするし、又一方から見まして是が山國であるか平原國であるとかとふやうなことも亦考へたいのであります、是等の色々の点を考へて見まして、日本が島國であるといふこと、海に極めて接近して居るといふこと、又近頃に於きましては大陸にも優る發展を致しました、それが尙ほ大陸の沿岸諸國の如く海に接するに都合が宜いといふ位置を占めて居る。是等が日本の國土の價値を高める上に於てどの位立派であるか、是も申すまでもない次第であります。是等の自然的條件を

擧げますれば際限のないことでありまるが、尙ほ一方から見まして是等の自然的條件の外に、どういふ人文上の條件を其處に考へなければならぬか、即ち自然的の地理的の位置といふ外に人文上の地理的の位置を考へて見たいのであります。

それはどういふことを意味するかと申しまするとと、自然的の見方、是が大陸の眞中にあるか、或は熱帶地方にあるか、寒帶地方にあるかといふことをいひまする如く、今日世界中の多くの國が其處此處に興つて居る、それ等の各國に對してどういふ位置を具へて居るか、或は種々の民族が其處此處に割據して居る、其仲間入をして日本民族はどういふ位置を占めて居るか、一口に申しまするならば、今日活動の世界の舞臺のどの邊に位置を占めて居るか、檜舞臺の眞中に活動して居るか、或は幕の隅の方にこッそり隱れて居るか、どういふ位置を占めて居るかといふことを考へて見るのであります、今日世界の文明の發達の跡を辿り、今日多くの國家が興亡をして居りまする其境を見て參りまするといふと、現在の有樣に於て世界に二つの舞臺がある。即ち一つは歐羅巴を中心にして居りまする舞臺、一つは亞細亞の東の方にありまする舞臺、斯ういふ二つの舞臺を考へることが出來るのであります。即ち是等の地方は其自然の土地柄が洵に宜しくありまする爲めに、即ち吾々人類が生活し其處に種々の活動を試みる上に最も都合の宜い所であります。爲めに一方歐羅巴に於きまして澤山の人間が住まつて、詰り多くの人間を收容し得るだけ其處に澤山の國が興り、又其人間が勝れた人間であります爲に、所謂世界の强者とい

ふものが住まつて居るのであります。世界の强者といふ方面は歐羅巴を中心としまして住まつて居ります。併ながら他の一方に於きまして、日本、支那、印度、之を集めました此地方にどの位の人間が居るかといふと、約八億の人間が住まつて居るのであります。矢張り世界の人口の殆ど半數が此邊に住まつて居る。彼等は古き歷史を有つて居ります。印度の歷史が極めて古く、支那亦之に劣らず、日本といふものは世界の他の國に較べて見ると歐羅巴諸國より極めて古い歷史を有つて此方に榮えて居るのであります。即ち此地方は矢張り自然の條件が吾々人類の棲息、吾々人類が社會を立て國を營む上に洵に都合が好く出來て居りますので、即ち此所に是だけの人間が集つてそれだけの時代年代を重ねて生存して居るのであります。此二つの中心は久しく沒交涉であつたのであります。成程幾ほどかの連絡交通がありましたけれども、洵に僅かなもので絕へ〳〵切れ〳〵のものであつたのであります。併ながら今日に於きましては此二つの中心が段々接近して參つたのであります。即ち其場所こそ違ひませぬけれども交通の便、是が非常に發達しました爲に、即ち人智の發達に伴つて交通が容易くなつて又其爲に物質の供給が盛んになつて來る、一方で足らぬ所を一方で補ふ、吾々の生活に必要なる所の衣食住を得る上に於て吾々の食物、吾々の衣服、其衣服の原料たる綿なり羊毛なり、是等の原料を得る爲に迚も自分の居る所だけで得ることはむづかしいので、所謂有無相通じて是等の交易が段々盛んになつて來る。交通が便利になれば世界の隅々にまでそれ等の事が最も容易く出來、最も盛んに出來る所から世界中に供給して

行くといふのが詰り經濟の原則に適ふ、吾々の經濟的活動、即ち衣食住の途を充たす所の活動、それを充たす上に於て理想的の仕事であります。それで段々交通の便が開け大きな船も出來、昔は唯だ珍しい物を遠方から持つて來たものが、今では大きな船で嵩張つた所の綿であるとか米であるとかといふものをどん〳〵持運ぶことが出來る。昔は歐羅巴から印度に來ました者は何を持つて還つたかといふと、小さな船で參りましたものでありますから、其小さな船で嵩の張つた綿や米などを持つてそれを歐羅巴で賣捌といふことはむづかしいので、昔は黃金であるとか寶石であるとか、或は貴い香ひのする香料であるとか詰り貴金屬といふやうなもので、さうでなければ長い年月の間、航海をやつて行く其勞力を相償ふことが出來なかつたものでありますから、昔はそれで滿足して居りました。ところが段々今日の如く交通の便が發達して來ますといふと、最早そんな珍しい物、貴い物に滿足せず、日常の生活に必要なる衣食住に最も大切なる物を求める、又求めることが樂に求められる狀態になりまして、是等の二大中心は愈々爰に接近して來る。斯うなつて居るといふと、此東洋の位置はどうであるかといふと、元はお互ひに一方から他の方を見ますれば邊鄙な所、世界の果てである、向ふから見ても夷狄の國である　あれはもう世界の片隅であるといふ風に云つて居つたものが、互ひに向ふに大きな檜舞臺があれば此方にも檜舞臺があるといふ形になつて參つたのであります。さうするといふと假令日本の位置でありましても元は世界の何處か隅の餘程珍しい所と思はれて居つたものが、もう交通線路の上から見ましても世界の

幹線に當る、世界の東海筋に當るといふやうな重もな線路に當る、太平洋の如きも元は殆ど知られなかつたものが今では世界の本街道の海になるといふやうな有樣で、さうしますといふと人文の發達と共に世界の所謂檜舞臺たる中心が段々位置が變つて來る、一箇所にあつたものが二箇所になり、或は二箇所のみならず、ずつと續いて花道から舞臺に行つても、此所にも花道に行くといふ世界の大通りが出來て居る、其大通りに觸れて居る所が即ち世界の一番活動して居る舞臺に結局なつて行くのであります。日本などは今日どうであるかといふと、昔と較べて人文上の發達と共に世界の檜舞臺の位置を日本の現在が占めるやうになつて來て居るのであります。或は日本よりは歐羅巴にコンパスで測つて見ますと距離が近いと云はれて居りまする所で存外檜舞臺に遠ざかつて居る所が少くないのであります。例へば露西亞領、亞細亞中部でも西藏でも距離から申しますれば日本より近いのでありますが、併ながら今日では邊鄙な位置に數へられるのであります。さういふやうな人爲的な土地の價値といふものも爰に考に入れなければならぬことになつて來るのであります。是等の種々の点を考へまして、今日の吾々の國土が如何に麗しいといふことを思ひまするといふと、何れの點から見ましても劣ることなく、否劣ることなくばかりでなしに、世界の他の地方より立派な土地であるといふことを否定することは出來ぬのであります尙ほ土地を利用する上に於きましては土地の表面に出來る色々の產物などを得る其生產力を圖るといふ以外に地の中まで這入り込んで、地の中にどれだけの富源があるかといふことに就て考へましても、尙

日本は相當なる富源を有つて居る。決して貧弱でないといふことを吾々は喜ばなければならぬのであります。殊に土地の價を見まするに就きましては、土地直接の價を見まするのと、其住まつて居る人間、其民族のことを考へることは勿論であります。如何に麗しい土地でありましても、此自然的條件は十分に備つて居るにした所が、其處に住まつて居る人間が果して能く其土地を活用し得るか、其國を利用して其國を富ます、其土地の地を耕し其土地を掘つて富源を出して行くに就て、其知力に於て其體力に於て十分是等の文明社會に活動し得る民族であるか否や、又其知力體力を十分に用ゐ得るだけのそれだけの人間が其處に居るか、人口に於て十分であるかといふことを見たいのであります。隨分世界中には色々の國があり色々の民族が居る、又　民族の數も不規則でありますが、日本などは人口に於ては何不足なく、否不足せぬ所ではなく、此頃は人口過剰といふ程で、數に於きましては此國に七千萬もあるいふ程十分であるのであります。何處かへ吐口を見付けたいといふ程である。此人間の多いことは實に有難いことで、何千年の間、此土地が麗はしい爲めに此土地に繁殖して是だけの人間が出來得たのであつて、之を多いと言つて忌むやうなことがあつては勿體ないことで、口が曲るべきことであつて、詰り吾々の祖先より繁殖し來つた是だけの國民のあるといふことは是は大に人意を強うすべきことである。國民の數の多いといふことは平時に於きましては租稅を負担する、戰時に於きましては兵に出て血稅を課せられるといふことで、何れの點に於きましても直接國を支へる上に於きまして、それだけの力のあることは

見易いことであります。平時に於きまして又是だけの者が好い考を出し、色々の方面に勞働する者がある、又それだけの人數がありますれば勞働をしまするにしましても樣々の事業の方で仕事をする。分業が能く行はれる程又それだけ或點に於て愈々堪能にある、色々勝れたる腕を有つことが出來て居ると共に種々の發明をする者も出來て居る、さういふ色々の利益も其處に伴つて居るのであります。此人口の多いといふことは洵に感謝すべきであります。殊に如何に人が多くてもそれが愚鈍ならば仕方がない幸ひにして吾々同胞は吾々お互ひ決して自慢する必要はありませぬが、種々の點に於て勝れて居ることを認められて居るのであります。これは數年前のことでありますが、亞米利加のハンチングトンといふ人が世界の各地に廻章を廻しまして、世界の文明の程度を點數で書出して一の表を作つたのであります即ち世界の各地の百數十人の人から回答を得て、英吉利なり佛蘭西なり獨逸なり各の文明の程度に應じて點數をつけて貰つたのであります。唯だ文明の程度の點數といひますと甚だぼんやりして居りますが、數多の項目を擧げまして、例へば道德心の發達はどうか、美術を好むか音樂を好むか、或は工藝に長けて居るか或は種々の發明心があるか武力はどうであるか、色々項目を擧げて其各々の點數を附けるさうすると或國の者は發明心は二十點であるが武術に就ては八十點である、何が幾らと其平均を求めて五十點とか六十點とかいふ點を得る。其世界中の比較に於て日本はどの位であるかといふと、總點數が八十點以上になつて居つたのであります。それは日本の位置に依つて南日本、中部日本、北海道樺太と

いふやうに違ひますが、先づ多くの土地に於て八十點以上の點が附いたのであります、世界中の有識者百何十人が認めてさういふ點を附けたのでありますから、唯だ吾々が愛國心に富んで居るといふやうに自分の國にのみ高い點を附けて見たいといふ考でなく、他方と平均を得た點數を附けたものと見て宜いかと思ひます。先づ亞米利加の或部分、歐羅巴の國々と並んで九十點、百點には達して居なかつたのでありますが、而かも尙ほ日本が世界の他民族の位置を扱いて其位の評價を附けられて居るといふことは、是は聊か自ら慰める所あつて然るべきことゝ考へるのであります。是は唯ださういふ點を附けられたことが、それだけの評價であつて實例が之を證據立て居らなければ何等まだ滿足することは出來ぬのでありますが、吾々日本人は土地を開拓する。土地を開發する、新しい仕事を求めて何か仕事をする上に於ては十分成功し得る人間でありますかどうか、一度省みて見ましたならば唯今の其點數の附け方が不正當なことでないといふことを發見することに異議はないと思ふのであります。吾々は此日本の本國に於て斯くまで十分活動して居りますが、此數百數千年來貯へて參りました所の所謂日本の精華と申します元氣は、此明治の御代になりまして著しく發動いたしまして、先刻芳賀先生の御述の如く此日本の本國から外に溢れて出たのであります。東洋に於て日本の領土としては臺灣があり朝鮮があり樺太も加はり其他太平洋沿岸の各地に日本の勢力を扶植して參つたのであります。是等の土地を得た、唯だそれだけの面積が日本に加はつたといふだけのことでありまするならば、是は或は軍國主義、武斷的勢力といふこ

とで批評され終つても致方がないのでありますが、是等の土地を得た上に於て吾々は果して其土地をどうしたか、其土地の價値を高め得たか否やといふことを見まするといふと、是は日本人としてまだ洵に新しき試みであると思ひますが、確かに成功して居ると吾々は申したいのであります、世界的に發展して行く上に於て十分其能力があるといふことは自ら慰めて宜いと思ふのであります。併し民族に依りましては國土的發展をなしまして、或土地を得或領土を作る、作つた所が其土地を一向仕上げない所がある唯だ自分の國の色を地圖の上に塗つてそれで滿足して居り其土地を從來よりも更に價値ある立派な天地となし得るだけの能力の無いものがあります。殖民地を拵へましても殖民政策が一向宜しきを得ない。幾らか利益がありましても其得た所は本國に持つて行つてしまふ。本國は贅澤にしても殖民地は幾ら殖民の人間が働いても立派な產物を出しました所で其殖民地を更に開いて行く財源が無い、得た所の金は本國に取られて少しも殖民地を文明地にして呉れない。何時まで經つても其大きな土地の價値が擧らない爲めに、　其土地に居る人間が結局謀叛して本國を離れてしまふといふことは昔から隨分あつたのであります。彼の世界の殖民地に於て其最初のページを飾つて居る西班牙であるとか、葡萄牙であるとか是等が中部亞米利加、南亞米利加全部に亘つて大きな殖民地を拵へて居りましたが、一向西班牙人、葡萄牙人の手に依つて開けなかつたのであります。彼等は本國に背いた、其本國政府の殖民政策宜しきを得なかつた爲めに中部亞米利加、南亞米利加の共和國を拵へたのであります。而かも共和國を拵へた後

にも爭亂が絶えない革命が絶えない、隣の國と爭ふといふ譯で、一向富源開發の効果を得なかつた。同じゲルマン民族の殖民地でも英吉利人の開いた殖民地、和蘭人の開いた殖民地の方は餘程効果を擧げて居る。東洋に於ても佛蘭西は印度支那を有つて居る。和蘭は馬來諸島を有つて居る。英吉利が海峽殖民地を有つて居る。卽ち英吉利は新嘉坡を中心として海峽殖民地といふ一番小さなものを有つて居る。此國々の中でも一番何處が富を擧げて居るかといふと、英吉利の海峽殖民地が富を擧げて居る。其輸出額などに於ては佛蘭西殖民地に數倍して居る成績を擧げて居るといふ。それで日本がそれならば朝鮮なり臺灣なり其他を手に入れて其土地を能く開發して居るか、又其社會を十分に改善し得て居るかといふことを見まするといふと、固より過去二三十年來の經驗でありますから、まだ決して得意になる立派なことをいふことは出來ませぬ。併ながら臺灣などに於きましては既に臺灣の總督府は中央政府からして一文の補助も受けずして自分だけで悉皆賄つて行つて居る。臺灣に擧る所の租稅其他で自治をやつて居る。中央政府の財政上の御厄介にならずしてやつて居るといふことは結局臺灣に於ける其施政宜しきを得まして、臺灣の產物は日本領になりまして以來非常な額を以て增したのであります。例へば臺灣の砂糖の如きに於きましても、元支那領の時分には細い瘠せた砂糖黍を作つて居つた。ところが文明的の國々ではそんなことでは滿足を致しませぬ。同じ砂糖を取るにしても爪哇であるとか布哇であるとか、砂糖を取るに實に立派な砂糖を取つて居る。同じ面積の土地に居て數倍の收獲を得て居る。

同じ面積の土地に居て數倍の收穫を得て居る。それで日本領になりましてから元の支那の砂糖黍は廢めてしまつて全部布哇の種類の砂糖黍を作つて居る其爲めに、臺灣の砂糖の產額が非常な大きな產額に達したことは御承知の通りであります。總ての產業がさういふやうな方法で、金を取るにしましても、臺灣は有名な金の產地になつて居りますが、日本が臺灣を取りました時分には川の砂の中から金を摘み出して居つた。さういふ幼稚な方法で金を取つて居つた。併ながら地の中にどういふ富があるかといふことを、それを探るだけの術を心得ました日本人は、此川に砂金があるならば此川の源に砂金を流し出す元があるに相違ないといふことを考へるには迂遠でなかつたのであります。　そこで此川を遡つて山がある、其山を探つて其砂金を流し出した大きな金の脈を直ぐ發見し得たのであります。今では其金の脈から金を取つて居る、非常な澤山な產額を有つて居るといふことであります。總てが其調子でありまするからして富源は瞬く間に非常な倍數を以て增額して居ることで、社會の改善をするに就てもそれだけの資本が出來る。又昔の支那領の壓制の官吏の方法と違ひました仁政を施いて居りますので、臺灣が昔の占領當時に較べてまるで見違へるやうな立派なものになつて居るのであります。或は朝鮮でも同樣であります。朝鮮が日本の領土になりましてからまだ日は淺いのであります。けれども今此朝鮮だけを假に數字に就て申しましても如何に日本が朝鮮を得ましてから以來、日本の御蔭で朝鮮の土地の價値が高まつたかといふことを知るには若干の材料を供給することが出來ようと思ふのであります。　丁度日清

戰爭後間もなく日露戰爭が三十七八年でありますから、其後日本が朝鮮に手を着けましてから、明治四十一年に朝鮮が自分の國の產物を外に出して居つた高、即ち輸出の高が幾らかと申しますと、千四百萬圓、それが最近の大正七年の統計に依りますと、十二年前に千四百萬圓であつたものが一億五千四百萬圓になつて居る。丁度十一倍になつて居りまする。固より物價の騰貴といふこともあります。假に物價の騰貴が三倍であると致しましても十一倍に輸出額を上せたといふことは、如何に日本が手を着けてから以來、朝鮮から品物が出たか、今まで埋藏して居つた富をそれだけ出したかといふことを知るのに難くないと思ふのであります。それで一二のものに就て見ましても、朝鮮で米を作る上に就てはどうであるかと申しますと明治四十二年には七百萬石收穫があつものが、日本人が耕し日本人が能く敎へてやつた結果、大正六年には千二百萬石、殆ど倍額近くになつて居るのであります。或は朝鮮は有名な金の國であります。それが矢張明治四十一年には、どれだけ金が出て居つたかといふと、二百八十萬圓の金が出て居つたものが、大正六年には千六百萬圓、是も三倍以上に上つて居るのであります。斯の如くまだ僅か十數年の間でありまするが、日本人の知識を以て其仕事をしまするとそれだけに既に土地の價値を高めることが出來て居るし、日本人は決して殖民をしますとか或は土地を得ました所で、それの經營の上に於て失敗して居る所の民族ではないのでありまする。動もすれば先刻申しました如くに、日本人が亞細亞大陸を得る、或は朝鮮臺灣を取るといふことは、是は侵略主義である、軍國主義の其發現

であるといふやうなことを言つて非難する他の外國もあります。成程土地を取つた儘唯だもうそれを其儘にして置き、サーベル一點張りで抑へて置くといふならば、さう見られても仕方がないのでありますけれども今まで手を着けずに置いた所を日本が行つて手を着けて、さうして其土地をそれだけ開發するそれだけの品物を出す、それだけのものを輸出するといふことは何を意味するかといふと、詰り廣くいふと世界の平和幸福の爲めにやつて居る手段といつて差支ないのであります。此邊に居ります所の多數の住民は、若し元の儘であつたならば其當時のまだ十分開けて居らぬ所の政治思想の發達して居らぬ所の其政府の爲めに其官吏の爲めに所謂苛酷の扱ひを受け非常な苦しみを受けて居つたのであります。或は他の外國が來まして彼等をひどひ狀態に陷れたか分らぬのであります。其住民を救つたといふことも人道上の立派な仕事であります。況んや是等の土地に於きまして其土地の價値を高め、それだけの澤山の物を出しまして、それを輸出するといふことは、今日の有無相通ずるといふ世界の經濟狀態に於きまして、それだけの物を世界の各地に供給するといふ事で、世界の各地の者にそれだけの裕かな道を得させてやつたのであります。唯だ日本人がそれで金を儲けるのではない、是等の產物は世界中に行亘る、亞米利加人も甘い茶を飲むことも出來るし、支那人も歐羅巴人も美味な米を喰ふことも出來るし、其大豆を使ふことも出來るし、又工業用に供する物も得ることが出來るし、其金が又どれだけの便利を與へて居るか分らぬ位で、詰り世界中に利益を與へて居るのであります。此大きな仕事は實に明治の短い間に

成つた所の仕事でありまするが、此新たに得た所の土地といふものは、是はどれだけあるか、日本の今日の總ての面積、此日本の內地並に日本の領土、此全體を一緒に致しまして、それを假に百と見積りますといふと、其百の中の四十三即ち四割三分といふものは是は實に明治の御代になつて日本に加つた所の面積であるのであります。明治天皇の御稜威の下に吾々日本國民が愛國心の發露に依て是だけの土地といふものが日本の面積に加はつたのであります。吾々は之を日本の領土として四割三分といふ非常な大きな土地の加はつたことを吾々國民として喜ぶばかりでなく、之を世界の富の爲めに、世界の衣食住供給の上に日本がそれだけの土地を引受けて、それだけの物を供給し得る仕事を引受けたといふことは之を唯だ經濟上の一問題として明治天皇の御稜威の下に此事が出來たといふことを稱へ得る外に、更に外國に向つて是だけの御威光が廣がり得たといふ點に於きまして、日本の地理的價値が一層高まつたといふことを諸君と共に慶賀したいと存ずるのであります。明治の御代に次ぎまして大正の御代となり。更に日本の勢力は南洋諸島に廣がり、世界からお前の國に預けるといふ島々もありますし、又從來の行成りに於きまして政治的意味でなく經濟的勢力が他の大陸にも發達しつゝあるのであります。其勢力が既に吾々の手に歸した以上は、其土地の價値を能く見て出來るだけ開發し、今表面に現はれて居る以外に既に臺灣に經驗しましたと同樣に今一層麗しい果實を得たいといふことは、是はお互ひの將來の望みとして大に努めねばならぬかと存ずるのであります。日本の國土の價値を何れの點から判斷するかといふ

ことを述べますに當りまして、是等の點に就て諸君に御注意を與へて置きたいと思ふ次第であります。

怨無二輕重一皆不レ足レ報、
以レ怨報レ怨怨終不除、
唯レ有レ無怨而除怨耳、
（四分律）